

HYOGO

参考資料

地域アクションプラン

- 神戸地域
- 阪神地域
- 東播磨地域
- 北播磨地域
- 中播磨地域
- 西播磨地域
- 但馬地域
- 丹波地域
- 淡路地域

経営発展モデル

諮問

答申

農林水産政策審議会における審議経過

農林水産政策審議会 委員名簿

自然と地域のつながりを育む但馬の農林水産業

豊かな「水」と「緑」に育まれた個性輝く農林水産業

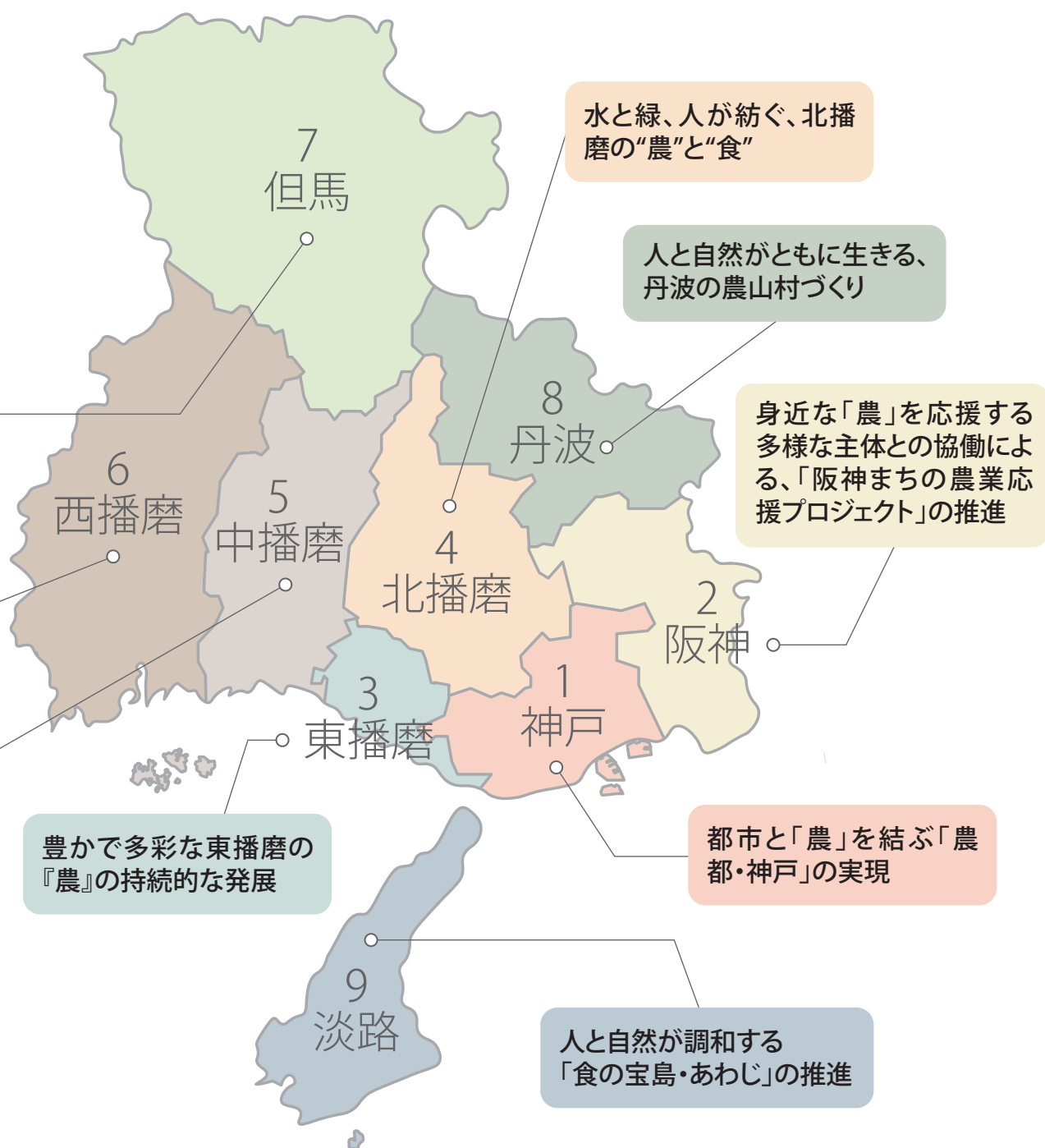
地域の力で元気みなぎる中播磨の農林水産業の実現

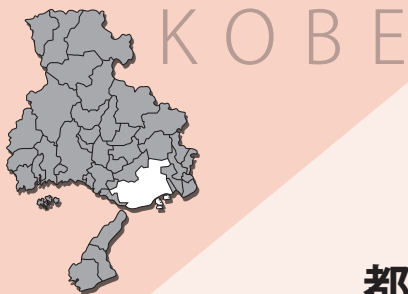
地域アクションプラン

本ビジョンの着実な推進を図るため、各地域では、それぞれの地域特性に応じた施策の実行計画（地域アクションプラン）を策定しています。

地域アクションプランでは、気候、風土や生活圏域、行政区分等のまとまりを考慮した9の地域を設定し、本ビジョンに示される施策の基本方向に沿って、それぞれの地域において令和8年度から17年度までの10年間に推進していく施策とその目標を明らかにしています。

ここでは、各地域の特徴を踏まえた主な取組を掲載しています。





神戸地域

都市と「農」を結ぶ「農都・神戸」の実現

施策の展開方向

都市住民と農家の交流による活気ある里山暮らしが実現する「農都・神戸」の展開に向け、新鮮で安全・安心な農畜水産物の生産拡大やブランド化を進めます。

また、安心して暮らせる地域の実現に向け、農業用ため池では、水害・地震、漁港においては、津波・高潮に対する防災機能を強化するとともに、六甲山等での森林保全・土砂災害対策やイノシシの被害対策を進めます。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特徴・立地を活かした農業の展開

有機農業技術、化学肥料・化学合成農薬低減技術について、実証ほの設置や研修会の開催等により普及拡大を図るとともに、地域由来の堆肥等の活用を促進することにより、人と環境にやさしい農業の取組を推進します。



いちじく栽培研修会(西区)

経営力の高い担い手や新規就農者への支援を行うとともに、地域計画に基づく農地の集積・集約を進めていきます。

都市と農村が近接している好立地条件を活かし、ニーズに応じた品目・品種の推進、直売所の整備や農業体験の支援を通じ、神戸産農産物の知名度向上と購入機会の確保を図ります。

需要に応える持続可能な畜産業の推進

畜産経営の基盤強化を図るため、各種補助事業の有効活用や制度資金利用等による施設整備と増頭を支援します。また、自動給餌機や発情発見装置等、スマート畜産機器導入を支援します。



稲WCS収穫作業(西区)

肉用牛では、神戸ビーフの需要に応えるため、乳用牛等への受精卵移植推進、施設整備支援事業の推進などにより、繁殖雌牛の増頭、神戸ビーフの増産を図ります。酪農においては、牛舎整備等を支援するとともに、ゲノミック評価

の高い乳用牛の導入や、雌雄判別精液の利用、高能力受精卵の活用を支援し、後継牛の確保による生乳生産量の拡大を図ります。神戸ポークは兵庫県認証食品等のPRを行うとともに、豚肉の生産振興を図ります。

水田の有効活用による稲WCS等自給飼料の増産を推進するほか、集落営農組織等と畜産農家とのマッチング、耕種農家に対する堆肥保管施設の整備、堆肥散布機械の導入等を支援し、耕畜連携による堆肥の利用拡大を推進します。

豊かな海と持続的な水産業の実現

漁業者による海底耕うんや海底への施肥など、藻場や浅場の機能を維持・回復する取組を支援するとともに、森づくりや海浜清掃などによる消費者等と協働した取組を推進します。



施肥の作業(須磨区)

海底の有機物を分解し、栄養塩類の放出が期待されるマナモコやクマエビの種苗生産・放流やマダコ等の種苗生産技術開発を行うとともに、資源状況や漁場環境に適した魚種への転換を図り、生態系との調和を保った栽培漁業を推進します。

持続的な水産資源の利用に向け、科学的な資源調査に基づく漁獲可能性を設定し、資源管理を推進するとともに、公的規制の順守や海面の利用調整を図るための啓発活動を推進します。

収益性の高い養殖業の確立を目指し、海洋環境の変化に対応した藻類の品種開発や食害対策等を推進するとともに、養殖海域の栄養塩類低下の影響を受けない本県の実況に適したサーモン類などの魚類養殖の育成・強化を支援します。

新規漁業者への漁船等の貸与制度や現場研修を支援し、漁業後継者の育成・確保を進めます。漁業コスト低減のための機器等の貸与制度を推進するほか、ICTやAIを活用したスマート水産業の推進により、漁業所得の向上を図ります。また、低・未利用魚の付加価値向上と販売促進を進め、漁業収入の安定化を図ります。

農山漁村の防災・減災対策の推進

ため池は決壊すれば下流に被害を及ぼすおそれがあるため、ため池管理者を対象とした講習会を開催するとともに、ため池堤体の漏水状況や堤体変状を把握する点検を定期的に行います。不具合の確認されたため池については指導・助言し、中でも決壊リスクの高いため池については改修整備を進めます。ため池決壊時の被害想定範囲などについては、県・神戸市のホームページ等により下流域の住民に周知します。



県営ため池等整備事業(西区)



六甲山の災害展(中央区)

集中豪雨や台風、地震等による災害の未然防止を図るため、山地災害危険地区で治山施設の整備を推進します。また、六甲山系を中心とした山地災害発生の歴史や治山事業の取組を企画展や現地見学会を通じて紹介し、県民の防災意識の向上を図ります。

漁村の安全と漁業活動の継続を確保するため、漁港施設の耐震化や津波・高潮の防災対策を推進します。さらに、近年の気候変動による影響を考慮した新たな海岸保全基本計画に基づき、漁港海岸の安全性向上を推進します。

豊かな森づくりの推進

六甲山系を中心とした森林の適正な管理に向け、国庫補助事業等を活用した整備を推進します。また、森林の持つ防災等の機能の維持向上を目指し、都市山防災林整備など、県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」を進めます。



都市山防災林整備(北区)

「農」と多様な分野との連携強化

農村部では地域の特産物を扱う直売所、地域食材を用いたメニューを提供する農家レストラン、地域特産物を活用した観光農園等、地域に根ざした資源を核とした、都市部住民との交流を促進します。



押部果樹園地花見ウォーク(西区)

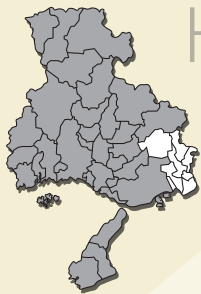
漁村では都市との共生・交流を促進し、漁村地域の活性化を図るために必要な施設整備等を支援し、海や漁村が有する価値や魅力を活かした「海業」を推進します。

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
いちじく新規栽培者数累計(人)	4	12	15
「都市山防災林整備」整備済面積(ha)	346※1	636	846
「六甲山の災害展」など企画展・現地見学会参加人数(人/年)	3,563	3,200	3,200
養殖ノリの生産量(百万枚)	95※2	96	97

※1 R5数値

※2 R1～R5平均値



HANSHIN

阪神地域

身近な「農」を応援する多様な主体との協働による、「阪神まちの農業応援プロジェクト」の推進

施策の展開方向

阪神地域の都市及び都市近郊農業（以下、都市農業等）に親しみを感じて、農地の多面的機能の重要性を理解し、自分事のように農業の維持や担い手の育成を支援できる機運を醸成します。

さらに、豊かな田園地帯と日本一の里山を有する北部地域では、それらの農村資源を守るため、都市住民も含めた多様な主体による農地・水路等の維持管理や里山の保全活用等の取組を進めます。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特色・立地を活かした農業の展開

人と環境にやさしい農業の裾野を広げるため、基本技術の普及や各種認証取得、販路開拓等を支援し、また、技術習得を支援するため、親方農家等研修先の確保を進めます。



枝豆収穫機導入による面積拡大
(三田市)

直売所等へ向けた多彩な

品目の安定供給のため、パイプハウスなどの生産施設やスマート農業技術等省力化技術の導入を進めるとともに、高温対策技術の導入・普及を推進します。

さらに、都市農業等が持つ環境保全等の多様な機能について都市住民の理解を深めるため、都市部における地元農産物の販売体制を支援し、また、ひょうご都市農業支援センターを拠点とした情報発信等により、都市住民である消費者とともに都市農業を支えあう関係性を強化します。

<主要な推進品目>

野菜：黒大豆枝豆、ピーマン、葉物野菜、施設いちご、施設トマト

果樹・茶：北摂栗、いちじく、もも、ぶどう、母子茶

花き：植木・盆梅・南京桃、ダリア、切り枝、花壇苗

畜産：酪農、肉用牛

水稻：高温耐性良食味品種、酒米「山田錦」

林産物：北摂産原木しいたけ



南京桃（花もも）

新規就農者に対しては、関係機関と連携し、インターンシップを活用した農業体験や親方農家等での研修による技術習得、農地確保等を支援し円滑な就農につなげ、就農

後は、早期の経営安定に向け習熟度に合わせた継続的な支援を行います。また、認定新規就農者等の地域農業の担い手を認定農業者に誘導するとともに、個々の課題に応じた経営指導等により経営力の強化を支援します。

地域の実情に応じた基盤整備の推進に向け、地域の合意形成を進めるため、用排水施設の省力化技術などの先進地視察研修を実施します。また、今後、更新費用の負担が課題となる老朽化した農業水利施設については、施設の機能保全計画を策定し、ライフサイクルコストの縮減と長寿命化を図ります。

ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

阪神産黒大豆枝豆を地域に親しまれるブランドとして育成するため、生産性向上を図る仕組みを構築するとともに、収穫体験や観光農園を通じて消費者へのPR、飲食店などへの需要創



六甲黒ゆたかのPR（東京都）

出を図ります。また、各種イベントや広報媒体等を活用して阪神産農畜林産物の積極的なPRを行い、都市近郊の立地を活かした販路開拓を支援します。

農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

野生鳥獣による農業被害の軽減に向けて、管理計画に基づき、有害捕獲や狩猟による適正な個体数管理を推進するとともに、被害が多い集落を対象に「獣害対策チーム」による集落ぐるみの取組支援を進めます。



獣害対策チームによる集落指導

農山漁村の防災・減災対策の推進

ため池管理者による適正管理の取組への支援や、「ため池保全計画」に基づいた計画的な改修整備等により、ため池災害等の未然防止を図ります。また、治山ダムや山腹工の整備の計画的な推進や、山地災害危険地区等の防災パトロールを実施します。



ため池クリーンキャンペーン(三田市)

豊かな森づくりの推進

森林整備等を実施している市民活動の紹介や、各種団体等の活動支援により里山林の健全化を図ります。また、森林環境譲与税を活用したナラ枯れの再拡大防止を図ります。



緑の少年団による森林整備

「農」と多様な分野との連携強化

農業者と福祉事業所のニーズ把握やマッチング、農地確保、栽培技術の習得など、農福連携推進に向けた取組を支援します。また、飲食店や観光分野との連携を強化し、地元食材「メイド in 阪神」や観光農園、阪神産食材が味わえる飲食店など、「農」と食の魅力を発信し、交流人口の拡大を目指します。また、生産者や給食関係者と連携の下、食育事業の推進など、地域産農畜林産物の利活用を促進します。



「メイド in 阪神」応援店紹介パンフレット

県民とのつながりで育む食と「農」

魅力ある直売所の運営を支援するため、農業者による施設・機械導入を支援し、多彩な製品の供給力を強化するとともに、直売所の製品のPRイベント等を支援します。また、園児とその保護者を対象とした黒大豆枝豆などの収穫体験を通じて、幼少期から地元産品に触れ合う機会の充実に努めます。

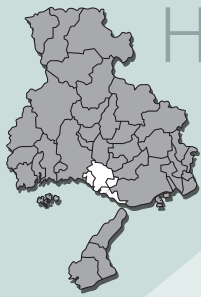


幼稚園でのさやもぎ体験(三田市)

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
農業総産出額(億円)	87※	89	91
生産緑地面積(ha)	353	334	320
水稲(良食味)高温耐性品種の導入割合(%)	0	28	33
黒大豆枝豆販売額(百万円)	108	300	350
三田ピーマン栽培面積(ha)	2.0	2.3	2.5
肉牛型WCS用稲作付面積(ha)	1.0	5.0	10.0
施設いちご栽培面積(ha)	3.6	4.0	4.5
ぶどう栽培面積(ha)	2.5	3.0	3.5
ダリア(切り花用)作付面積(ha)	0.5	0.6	0.7

※ R5数値



HIGASHI HARIMA

東播磨地域

豊かで多彩な東播磨の『農』の持続的な発展

施策の展開方向

都市近郊に立地した東播磨地域の特徴を活かし、農林水産物の生産拡大や、多様化するニーズに対応した高付加価値化や販路の多角化を図るとともに、新規就業者の確保・育成と集落営農組織や認定農業者等担い手の経営力強化を図ります。

また、海への栄養塩類供給や漁場環境の改善による水産資源の維持・増大、さらには、ため池・里山・漁港の防災対策を進めます。

これらの取組に加え、地域住民をはじめ観光事業者、食関連事業者など多様な事業者との連携を進め、地域資源を活用した交流・体験機会の創出や新商品の開発等の取組により活力ある東播磨地域の実現を図ります。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特徴・立地を活かした農業の展開



六条大麦(稲美町)

人と環境にやさしい農業の推進を図るため、ヘアリーベッチ等の緑肥としての活用による化学肥料の低減や化学農薬低減技術の導入を推進します。また、有機農業の拡大に向け、栽培技術の習得等を支援する有機農業塾等の取組や小中学校の米飯給食に使用する米の化学農薬・化学肥料不使用栽培への転換を推進します。

生産性向上による競争力強化に向けて、省力化や収量・品質の向上を図るスマート農業技術の導入のため、施設野菜では、環境制御技術の普及、土地利用型作物では、集落営農組織等へのスマート農業機器の導入や農業支援サービス事業者の活用等を推進します。

また、主食用米について、気候変動に対応した高温耐性品種の普及に向け、地域にあった栽培方法の推進、六条大麦やパスタ用デュラム小麦等の麦類は、排水対策等の徹底により生産拡大を促進します。キャベツ、スイートコーン等の露地野菜では、発生予察による害虫防除や気候変動に対応した優良品種への転換、トマト、いちご等の施設野菜では、環境制御技術の導入や高温対策を推進します。花きでは、品目や色彩など多様化する消費者ニーズへの対応、いちじく等果樹では、更なる品質の向上に向けた生産を支援します。加えて、「地域就農支援センター」において、就農希望者に対し就農計画作成を支援するとともに、初期投資の負担軽減や販路の確保等による就農の安定化

を支援し、次代を担う経営力の高い担い手の確保等を図ります。

需要に応える持続可能な畜産業の推進

加古川和牛(神戸ビーフ)の生産拡大に向け、繁殖肥育一貫経営による経営の安定化や繁殖育成・肥育技術に優れた担い手の育成・確保を推進します。また、令和6年に結成された「加古川和牛改良組合」を中心に、但馬牛繁殖雌牛の増頭による加古川和牛肥育素牛の安定生産や「おいしい加古川和牛」の生産拡大に向けて優良系統の造成・維持等を目指す取組を推進し、「加古川和牛」の認知度向上や神戸ビーフ供給頭数の増加を図り、ブランド力の強化と需要拡大を推進します。

豊かな海と持続的な水産業の実現

「豊かな海」を実現するため、漁業者によるため池のかいぼりや海底耕うん、海底への施肥など、藻場や浅場の機能を維持・回復する多様な取組や二枚貝の放流による漁場環



二枚貝の放流(高砂市)

境改善、資源が減少しているマダコの産卵用たこつぼの設置等による水産資源増大への取組を支援します。

また、漁業の担い手確保に向け、新規漁業就業者等の

設備投資負担軽減や新規漁業者の研修への支援を行うとともに、コスト低減のための省エネ機関等の導入や高付加価値化等のための高鮮度保持設備等の導入支援により収益性の高い漁業経営を推進します。

ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

東播磨産農産物のブランド力を強化し、都市近郊の地の利を活かした販売促進につなげるため、スイートコーン、六条大麦、メロン等の既存ブランド製品の生産力強化と更なる認知度向上を図るとともに、新たな特産品を発掘する取組を推進します。

水産物では、マダイやサワラ、ヒラメ等のより一層の付加価値向上や認知度向上を図り、更なるブランド化を進めます。

農山漁村の防災・減災対策の推進

ため池災害の未然防止については、被害を及ぼすおそれのあるため池を対象に管理者講習会等により日常の管理体制を充実させ、点検結果を踏まえて簡易な補修や低水位管理等を促します。特に決壊リスクが高いため池は計画的に改修・廃止を進め、災害に強い農村づくりを推進します。



改修されたため池(明石市)

山地防災・土砂災害対策については、森林が有する土砂崩壊防備機能などの公益的機能を森林整備により維持造成し、治山ダム等の溪流対策を実施して土石流や流木による被害を軽減します。

漁港の耐震化と津波・高潮防災対策については、港内の静穏度向上を図る防波堤や、地震発生時の漁業活動継続のための陸揚岸壁の耐震化、漁港施設の長寿命化等を推進するとともに、南海トラフ巨大地震等に備えるため効果的な津波対策等を実施します。

豊かな森づくりの推進

森林の防災機能を高めるため、集落に近接する山地災害危険地区の森林整備など「災害に強い森づくり」を進めるとともに、地域住民が自然災害に的確に対応できるよう研修会の開催や普及啓発を進め、ボランティアなど多様な担い手による森づくり活動を支援します。



ボランティアによる竹林整備(加古川市)

「農」と多様な分野との連携強化

農福連携の推進に向け、労働環境改善や作業効率の向上等に必要な支援を行い取組拡大を図ります。

また、地元企業から排出される鉄鋼スラグを原料とした肥料を活用し、農産物の収量や品質の向上を図ります。



ミスト扇風機による農作業時の暑熱対策(稲美町)

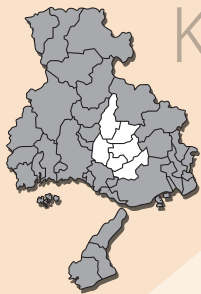
県民とのつながりで育む食と「農」

県産県消の推進に向け、直売所での販売に加え、臨海部にもものづくり企業等が集積する立地を活かし、企業と連携した産直販売や産地見学会の開催等により、地域製品の認知度向上や販路拡大等を図るとともに、学校給食への地元産農水産物の提供や子どもたちと親を対象に農作業体験の実施を推進します。これらの取組により、地域の農林水産業に対する理解醸成を促進します。

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
緑肥施用面積 (ha)	198	210	220
大麦の作付面積 (ha)	448	460	470
森林ボランティア団体数 (団体)	20	20	20
養殖ノリの生産量 (百万枚)	646※	660	670
ため池管理者講習会実施回数累計 (回)	28	58	83

※R1～R5平均値



KITA HARIMA

北播磨地域

水と緑、人が紡ぐ、北播磨の“農”と“食”

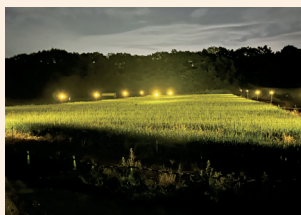
施策の展開方向

北播磨地域は兵庫県のほぼ中央に位置し、「日本のヘソ」と称される地理的中心地です。加古川が中央を流れ、豊かな自然と交通利便性に恵まれ「山田錦」「黒田庄和牛」「播州百日どり」「加西ゴールデンベリーA」など高品質な特産農畜産物が生産され、園芸や林業も盛んです。一方、農業では高齢化や人口減少、鳥獣被害、気候変動による品質低下や施設老朽化が課題です。畜産や林業でも担い手不足や病害虫、里山林の保全の課題があり、農山村では耕作放棄地や水利施設管理、防災面の課題も顕在化しています。こうした状況を踏まえ、特産物のブランド化や6次産業化、地産地消を推進し、自然と共生する活力ある農林業と持続可能な地域づくりを目指します。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と地域の特徴・立地を活かした農業の展開

北播磨地域では、持続可能な農業と環境保全を両立する人と環境にやさしい農業を推進しています。化学肥料・農薬の使用削減や環境に配慮した農産物の拡大、堆肥や緑肥を活用した土づくりを進めるとともに、有機農業やひょうご食品認証制度に基づく環境に配慮した農産物の拡大を促します。



黄色LED防蛾灯(三木市)

スマート農業技術や直進アシスト農機・ドローン導入による省力化を進め、山田錦やもち麦など特産物の高品質化とブランド化を図ります。

地域計画や農地集積を通じ、持続的な担い手確保と地域農業基盤の強化を進めます。

需要に応える持続可能な畜産の推進

北播磨地域では、肉用牛繁殖や酪農経営で自動給餌機や発情発見・分娩監視システムなどのスマート畜産技術を導入し、省力化と生産性向上を図ります。

酪農では搾乳・餌寄せロボットの活用や飼料自給率向上、乳質改善、ゲノミック評価による牛群改良を推進します。肉用牛では神戸ビーフや黒田庄和牛のブランド強化、暑熱対策・栄養管理の充実、担い手育成を進めます。

さらに、耕畜連携による堆肥活用や暑熱耐性品種導入で資源循環と持続可能な畜産経営を実現します。

資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

北播磨地域では、森林資源の循環利用を進めるため、林業経営に適した人工林で森林の集約化や林道整備、高性能林業機械の導入を推進し、低コストで安定的な原木生産と計画的な主伐・



木育活動(小野市)

再造林を進めます。条件不利地では森林環境譲与税を活用し、間伐による健全育成と公益的機能の維持を図ります。北はりま森林組合を中心にスマート林業の導入や人材育成を進め、県産木材の利用拡大では公共施設等の木造・木質化や木育活動を展開します。

さらに、バイオマス活用による再生可能エネルギー利用も推進します。

ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

北播磨地域では、もち麦の需要拡大に向けて食品企業や地域団体と連携し、新商品開発や都市部でのPRを推進します。

特産品の差別化やひょうご食品認証制度の活用、GAP等に基づく安全



山田錦の田園風景(加東市)

体制整備を進め、商標登録やGI取得でブランド化を図ります。養鶏では「播州百日どり」の安定供給と品質向上を進め、安心・安全な地産地消を推進します。また、「山田錦」の日本農業遺産認定を契機に、普及啓発と後継者育成を通じて地域の誇りとブランド力を高めます。

農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

北播磨地域では、多面的機能支払制度を活用し、農家と非農家が協働して農地や水路を保全する取組が県内最大規模で行われています。中山間地域では直接支払制度を活用し、景観や文化を活かした定住促進と地域連携による支え合い体制を強化しています。



東播磨・北播磨地域多面的機能保全向上活動発表会(三木市)

また、イノシシやシカなどの被害対策としてICTを活用した監視や防護柵整備を進め、シカ肉の利活用による地域振興と被害軽減を両立します。

農山漁村の防災・減災対策の推進

下流に被害のおそれがあるため池について、管理者講習等を通じて日常管理を強化するとともに簡易補修や低水位管理により決壊リスクを低減します。特に危険度の高いため池は、関係者と調整し計画的に改修・廃止を進め、

安全性を確保します。あわせて、ため池の雨水貯留機能を活かした流域対策や「ため池保全県民運動」を展開します。

また、「第5次山地防災・土砂災害対策計画」に基づき、治山ダム等重点整備を計画的に実施するとともに、山地災害危険地区情報のCGハザードマップ公開・周知を通じて住民意識の向上を図り、山地災害の防災・減災に取り組めます。



改修後のため池(西脇市)

県民への安定的な食料供給

直売所では地元産品・特産物の販売機能を強化し、地域経済の活性化を図ります。食品安全確保のため、事業者向け講習会や情報提供体制を整備し、トレーサビリティを推進して信頼体制を構築します。



もち麦種子審査(加東市)

もち麦は需要拡大に対応するため、採種体制の強化や集落営農向け研修を通じて栽培技術や品質向上を図り、加東市もち麦活用協議会と連携して認知度向上とブランド化を推進します。

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
山田錦作付面積(ha)	4,204	4,204	4,204
ため池管理者講習会実施回数累計(回)	56	92	122
木育年間利用者数(人/年)	190,000	200,000	200,000